

第5期 きらっとあさひプランってなあに？

旭区地域福祉保健計画の愛称です。
身近なまちに知り合いが増え、
安心して自分らしく暮らせるまちにするための計画です。

旭区役所、旭区社会福祉協議会、地域ケアプラザが
地域の皆さんとともに取り組みます。



基本理念

地域で支えあい 安心して自分らしく暮らせるまち 旭区をつくろう

1 日常的なつながりを通じた地域づくり

お互いの理解を深め、さりげない見守りや日常の交流を通じたゆるやかにつながる地域を目指します。

2 困ったときでも安心して暮らせる体制づくり

どこに相談をしても必要な支援につながる体制をつくります。課題解決に向けて様々な人や団体で話し合います。

3 地域参加のための環境づくり

誰もが気軽に地域と関わって、企業や法人なども活躍でき、既存の活動も続けやすい、環境づくりを進めます。

地区別 計画

地区ごとの課題に対する取組

区全域 計画

区全域に共通する課題に対する取組
地区別計画を支える取組

きらっとあさひプランをみんなで話し合い、確認しながら取組を進めることが大切なんだね！

旭区 マスコットキャラクター あさひくん

一つひとつの取組が「安心して自分らしく暮らせるまち」につながっているよ♪

きらっとあさひプラン マスコットキャラクター あさちゃん

きらっとあさひプランの詳細はこちら

川井 地区

- 上川井町
- 川井本町
- 川井宿町
- 都岡町
- 下川井町
- 矢指町
- 金が谷

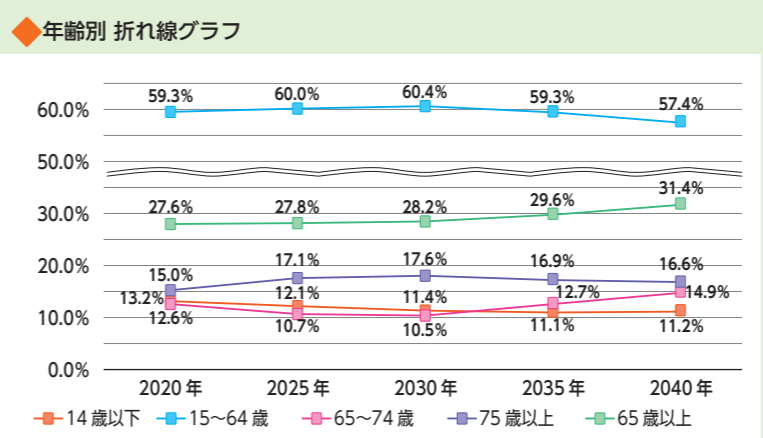
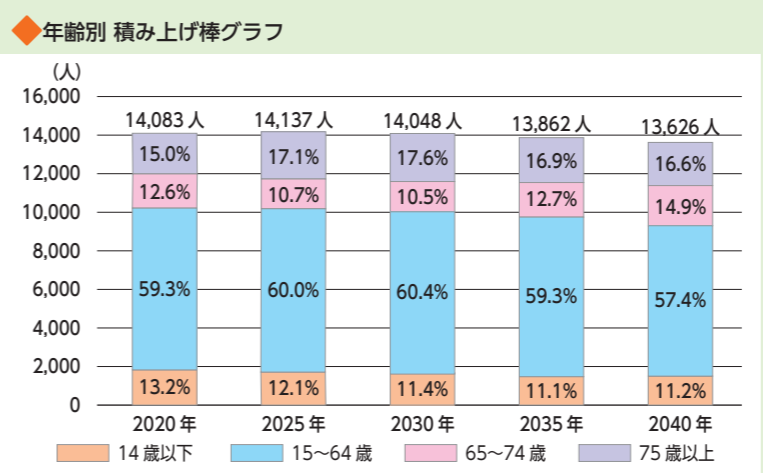
あなたのまちは、どんなまち？



川井地区は、旭区の北部に位置し、帷子川流域の最も広い地区です。地区の大半は市街化調整区域であり、福祉施設が多い地区です。また、自然を生かした土地利用が多い地区で、矢指市民の森、追分市民の森、ズーラシア、ゴルフ場など多くの緑に恵まれています。

川井地区の将来推計人口は、横浜市や旭区全体と比較して、人口減少・高齢化傾向がゆるやかであり、総人口・14歳以下の比率ともよこばいと推測されます。

今後の人口の変化予想



2025年の人口は約14,100人で、今後はよこばい傾向で推移すると見込まれます。

2030年には、14歳以下は11.4%、65歳以上は28.2%となる見込みです。

第5期きらっと川井プラン

「みんなが、地元でつながり支えあう心豊かなまち川井」

豊かな自然の中で、子どもから高齢者、障害のあるなしにかかわらず、住民が地元でつながりを深め、みんなで支えあい、元気に安心して住み続けられるまちを目指します。

川井地区の課題

1. 災害時に生かせる日常の見守り活動の推進
2. 「高齢者福祉」から、「地域福祉」(「地元福祉」)への進化
(子どもから高齢者、障害のあるなしにかかわらず、住民が地元で支えあう)
 - (1) 子ども食堂、フードバンク等の支援
 - (2) 福祉施設との交流の強化
3. 連合会・地区社協の広報体制の確立

これまでの取組

- 「見える支えあい」の実現に向け、ほっこり活動の推進組織として、住民に最も身近な各町内会・自治会での「福祉部」の創設と、見守り体制の組織化を進めました。
- 健康寿命を延ばすとともに、住民同士がつながる取組として、ウォーキングやポッチャ大会・交流会などのスポーツイベント等の開催を通じて、新型コロナ禍から戻りつつある地域内の交流を進めました。

推進体制

1. 第5期きらっと川井プラン推進会議を充実強化します。
(連合会と地区社協の共催で、年4回開催します。)
2. 連合会・地区社協の共同広報体制を確立します。
3. 川井地域ケアプラザとの連携を強化します。

目標と主な取組

目標 A 地元で、見える支えあいをしよう

1. 災害時に生かせる、日常の見守り活動を進めます。
 - (1) 手助けが必要な人を対象にした、「ご近助ほっこり活動」を進めます。
 - (2) 地域住民を対象にした、効果的安否確認(災害時・日常)の制度の検討を行います。
2. サロン(居場所)活動やサークル活動を支援します。
 - (1) サロン活動やサークル活動を「住民の日常の支えあい」として位置付け、積極的に支援します。
 - (2) 川井地区内のサロン活動・サークル活動の実態調査を行います。
3. ちょこボラ活動を進めます。
 - (1) 活動件数の維持・向上と活動ボランティア数の増強を目指します。
 - (2) 「見守り」を意識した活動を進めます。



ちょこボラ(草取り)

目標 B 健康寿命を延ばそう

1. 健康維持・増進活動を進めます。
 - (1) 健康ウォーキングを年2回以上継続します。
 - (2) ウォーキングサークルの結成を支援します。
2. 認知症の理解・啓発活動の推進
 - (1) 川井地域ケアプラザの「チームオレンジ」を中心に、理解を広める活動を進めます。
 - (2) 各町内会・自治会の取組と連携します。



健康ウォーキング

目標 C 住民同士つながろう

1. 「高齢者福祉」から、「地域福祉」(「地元福祉」)へ向かって、住民同士つながろう(子どもから高齢者、障害のあるなしにかかわらず、住民が地元で支え合う)
 - (1) 地域のつながりを広げるため、子ども食堂、フードバンク等の立ち上げを支援します。
 - ① 必要性の勉強会や見学会など、現状の調査からスタートさせ、着実に進めます。
 - (2) 福祉施設との交流を進めます。
 - ① 福祉施設との交流を進め、町内会ポッチャ福祉交流会を定着させます。
 - ② 福祉施設との、お祭り・防災訓練などでの交流を進めます。
2. 川井地区代表選抜の「ポッチャ大会」を行います。
3. 防災・被災対策を、連合会・地区社協が協働して進めます。



ポッチャ大会